

子どもたちが病院で医療体験

07月31日 13時50分



橋本市の病院で、夏休みの子どもたちが楽しみながら医療について学ぶ催しが開かれました。この催しは、子どもたちに医療に関心を持ってもらおうと、橋本市の紀和病院が初めて開きました。青い手術着に身を包んだ子どもたちは、医師の指導を受けながら超音波検査を体験し、肝臓などの内臓がどこにあり、どんな動きをしているのか観察しました。また、実際の手術で使われる電気メスで鶏肉を切ったり、傷口に見立てたスポンジの切れ目を針と糸で縫い合わせたりして、医師の基本的な仕事を体験していました。また、会場には車いすやAEDの操作を体験するコーナーも設けられ、子どもたちは楽しみながら医療について学んでいました。参加した子どもたちは、「手術の体験が楽しかった」とか、「ふだんはできないことを体験できてよかった」などと話していました。この催しの実行委員長を務めた梅村定司医師は、「子どもたちは興味津々で、目を輝かせて見てくれていた。これをきっかけに、医療を身近に感じてくれればいいと思います」と話していました。(NHK和歌山放送局ホームページより転載)